

だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト

さすけねえ会津 やってみんなべえ！！

開催日時：2011年4月23日（土）・24日（日）10:00～15:00

開催場所：福島県会津若松市・野口英世青春通り

旧ブイチェーン中町店駐車場、野口英世青春広場

《はじめに》

2011年3月11日午後2時46分に発生した“平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震”は、最大震度7という激しい揺れ、その後発生した大津波、それに伴って生じた原発事故などによって、数多くの人々が被災し、数多くの人々が犠牲となり、数多くの人が行方不明になり、数多くの人々が不自由な避難生活を余儀なくされるなど、過去に例をみない未曾有の大災害となり、“東日本大震災”と称されました。

“東日本大震災”は、こうした直接的な被害だけでも、言葉では言い尽くすことができないほど甚大なものでありますが、加えて、間接的な被害や影響も甚大であり、日本という国を脅かすほどになっており、まさに国難であります。

間接的被害の最たるものが風評被害です。福島県会津地方は、その風評被害をもろに被った地域となってしまいました。

福島県会津地方は、事故が発生した原発からは程遠く、また実際に放射線量を測定した結果でも、まったく問題ないレベルです。ところが、「同じ福島県」ということで、「会津地方の農作物も危ない」とイメージされ、レッテルを貼られてしまいました。このため、会津地方の農産物は、ほとんど売れなくなってしまいました。

この風評被害は本当に深刻です。なぜなら、昨年（2010年）秋に収穫した米までも、「福島県会津地方産」というだけで売れなくなっているからです。これが風評なのです。私（山口）などは、風評とは「もはや犯罪である」と言いたいほどであります。風評とは、まったく根拠のないのに「会津地方の農作物」の名誉を傷つけているからです。

さて、“だがしや楽校”仲間であり会津坂下町・金上公民館の佐藤さんからは、会津坂下町でも風評被害によって地域全体から元気が失われていることが伝えられました。僅か数十キロメートルしか離れていないところに住んでいる私（山口）は非常に心を痛めました。

そして思ったのは、被災地・被災者・避難者を支援することは、言うまでもなく、最重要事項ではありますが、それと同じように、直接の被害はなくても、元気がなくなってしまった自分たちが住んでいる地域に対して、元気を取り戻すことも、地域の公民館として、あるいは私に課せられた使命ではないか、ということです。

風評と同じように問題になったのが、過度な自粛です。過度な自粛については“楽描きだがしや楽校”のRさん（山形市）は当初から語っていましたが、ますます地域から元気を失うことになり、被災地・被災者への支援にも影響を及ぼすのです。それでRさんは、「普通に生活できる人は普通に生活しましょう。それが私たちに出来る支援です」とおっしゃっていました。私もまったく同感でした。

普通の生活の中で、人はそれぞれ自分が持っている「得意なこと・興味のあること・おもしろいこと」などを積み上げていきます。それを「自分みせ」として持ち寄って開くのが“だがしや楽校”です。すなわち、まさにこういう時こそその“だがしや楽校”です。

私にとって隣り近所である福島県会津地方に元気を取り戻すにはどうしたら良いのか・・・と思っていた矢先の4月15日、金上公民館の佐藤さんから「とても急なお話なのですが、“あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”というイベントがあり、その中で『だがしや楽校』をやることにしました。というよりは、やるスペースを確保しました」という情報が発信されました。

“あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”自体が、「頭を抱えていても仕方ない。とにかくやってみんべえ！！（やってみよう）」という発想でした。だからでしょうか、当初サブタイトルは「風評被害を吹っ飛ばせ！」でした。

あいづ発 福島を元気にするプロジェクトのホームページ↓

<http://aizugenki.main.jp/>

さらに、佐藤さんも「とにかくやっちゃおう！」という発想で、参加を決めたそうです。だから、情報が発信されたのは、開催日の僅か8日前。こんなの普通ならあり得ないのですが、そんな硬いことを言っている場合ではありません。みんなで、会津（会津坂下）を、福島を、東北を、日本を元気にしたい・・・それだけの発想で参加することにしたのです。

こうして急遽決まった“だがしや楽校”でしたが、2日目の4月24日（日）は、西東京市で学童クラブなどを運営しているNPO法人子どもアミーゴ西東京が参加することになりました。

ここで、“あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”の概要をご紹介します。

会場は2カ所です。2カ所とも野口英世青春通り沿いです。野口英世青春通りは、会津若松市のメインストリートから1つ西側を南北に伸びる通りです。
(写真)

野口英世青春広場ではチャリティーコンサートです。1日目は7組、2日目は東京や仙台からも含め10組です。周囲には数店の屋台も建ち並びました。

旧ブイチェーン中町店駐車場では、地産地消市(風評被害を吹っ飛ばせ!)をテーマにした食の屋台、1日目は12組、2日目は11組)、農産物屋台(1日目は6組、2日目は7組)、物販(1日目は9組、2日目は12組)、いやし屋台(1日目は2組、



2日目は2組)、バザー、基金など。

ほかに、オリエンテーリングも行われました。

それでは“だがしや楽校”を中心に“あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”の模様をお伝えしましょう。なお、私（山口）も2日目のみの取材だったことを先におことわりします。

それで、1日目の様子を4月23日の夜、佐藤さんに電話でお聞きしたところ、「出店者が多くなり、テント1ブースと狭くなりましたが、楽しく行うことができました」という報告がありました。



2011年4月24日（日曜日）**晴れ** 午後**晴れ**時々曇り

【だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト】

絶好の好天の下、午前10時、2日目が始まりました。

まず、この日の“だがしや楽校”の主なスタッフ・メンバーをご紹介します。



会津坂下町・金上公民館・佐藤さん



会津若松市教育委員会・小野さん（奥中央）



会津坂下町・手芸クラブの皆さん
金上いなほ祭りにも出演しました
底抜けに明るいです



子どもアミーゴ西東京の皆さん



子どもアミーゴ西東京の菊地理事長と佐藤事務局長

高校生ボランティアのお二人

理事でもあり、このたび事務局長に就任された佐藤さんとは、NPO法人の運営についても談義させていただきました。普段からボランティア活動に携わっている高校生のお二人には、山形の高校生ボランティア『山形方式』について紹介させていただきました。

それから“だがしや楽校”ではありませんが、もう1人ご紹介します。



こちらの女性の方は、1年前（2010年3月）、東北芸術工科大学を卒業された方です。私が松田道雄さんや片桐隆嗣さんの名前を出しますと、懐かしそうに「知っています」と答えられました。

東北芸術工科大学では、陶芸を専攻します。そして、卒業後は、樹ノ音工房（会津美里町）に就職します。この日は、樹ノ音工房のブースにて陶芸品・陶器を販売しています。小野さんは、コーヒーカップを買われました。

樹ノ音工房はご夫婦で経営している工房です。本人は修行の身だそうですが、私のインタビューで、陶芸の魅力については「焼き上がった時にどんな作品が出てくるのか、焼き上がるまでわからないところが魅力です」と答えられました。陶芸の奥深さを感じました。

樹ノ音工房のブースは“だがしや楽校”の隣りでしたので、さらに親近感が湧いてきました。出品されている陶器は素朴な感じがしました。日常生活の中でも使えるものばかりです。そのためでしょうか、相当売れていました。



午前10時、パフォーマンス・ショーが始まりました。

旧ブイチェーン中町店駐車場会場でのパフォーマンス・ショーは、プログラムに入っていなかったのですが、ちょっとビックリでしたが、「とにかくやっちゃおう」というイベントですので、これ

もありです。パフォーマンス・ショーは“だがしや楽校”ブースの目の前で繰り広げられましたので、しばらくパフォーマンス・ショーに注目しましょう。



京都学生祭典のメンバーによる
京炎（きょうえん）そでふれ



よさこいサークル
紫踊屋（しおや）



会津大学の学生さん



Yダンスファクトリーの子どもたち
演舞終了後「がんばろう福島！」



京都から参加した京都学生祭典や紫踊屋の人たちと
演舞終了後にハイタッチする手芸クラブの人たち



ついでに、“チャリティーコンサート Music For 福島 From あいづ”が開かれている野口英世青春広場を覗いてみましょう。



満開の桜の下で、コンサートが繰り広げられました。

旧ブイチェーン中町店駐車場に戻って、“だがしや楽校”以外にも気になるブースがたくさんありました。でも、お昼はやっぱり会津名物“ソースカツ丼”をいただきました。

気になったのは“きんつば”です。“きんつば”と言いますと、アズキを砂糖で固めた甘〜いお菓子をイメージしますが、ここで売っていたのは“大判焼き”です。山形県で有名な大判焼きは“あじまん”です。それで「なんでこうなるのかな」と思いながらも、深く考えずに、ひたすら美味しくいただいたのであります。

それでは“だがしや楽校”のブースを紹介します。



会津坂下町・手芸クラブの皆さんによるおみせです。おみせでは、自分たちで作ったものを販売しています。





願い星ストラップ作り・・・指導しているのも手芸クラブの皆さんです。



スライムは会津でも大人気です。



プラバンです。これも“だがしや楽校”ではお馴染みの遊びです。





スライムやプラバンでいっぱい遊んだくれたお子さんにはお菓子のつかみ取り！です。

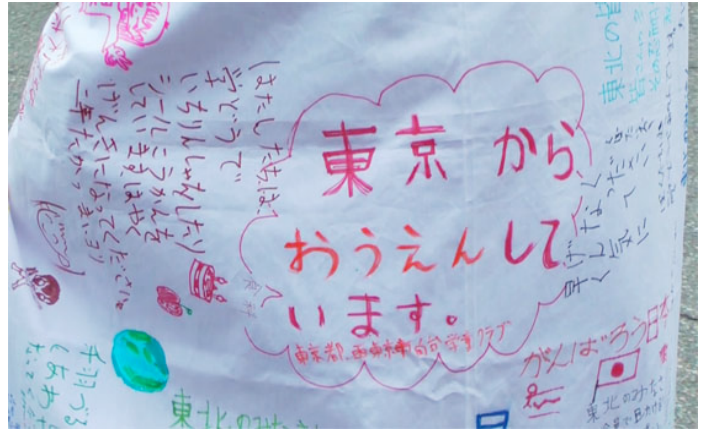
子どもアミーゴ西東京のおみせです。



子どもアミーゴ西東京が運営する学童クラブに通う子どもたちと指導員の人たちが丹精込めて作ったラスクを販売しています。もちろん完売しました。私（山口）も、完売する前に買っていると良かったかも・・・。



学童クラブに通う子どもたちは、大震災が起こった後、東北地方の子どもたちを励まそうと、みんなで相談し、メッセージを大きな幕や千羽鶴に書きました。この日の“だがしや楽校”では、そのメッセージも紹介されました。



子どもアミーゴ西東京によるベーゴマは、この日の“だがしや楽校”でも大人気となりました。そこで、たくさんの写真を使って、その様子を紹介します。



菊地さん自ら、子どもたちに指導です。



ベーゴマを回すことができると・・・



ベーゴマがもらえます。



子どもたちだけでなく、大人も真剣に遊んでいます。



おかあさん、見事に回しましたので、ベーゴマをゲット！

先程ステージパフォーマンスを披露したYダンスファクトリーの子どもたちもやってきました。

イベント全体の司会者も、“だがしや楽校”のブースは常に人が集っていることに注目、「だがしや楽校さんが大盛況です」とアナウンスしていました。もちろん、これはモノの売り買いだけではない“だがしや楽校”だからこその風景でした。

こうして“だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”は大盛況の内に終了しました。

1日を振り返って印象的だったのは、笑顔がいっぱいだったということです。笑顔は元気の源です。私（山口）もたくさんの元気をいただきました。



《振り返り》

風評に苦しむ会津を元気にしたいという思いで開いた“だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”ですが、振り返りますと、とても意義深いものでした。

西東京市から遠征して“だがしや楽校”に参加したNPO法人子どもアミーゴ西東京にとっては、初めての県外での“だがしや楽校”となりました。

子どもアミーゴ西東京では毎年9月、向台公園というところで“だがしや楽校”を開いています。この“だがしや楽校”は、自分たちの力だけで開いている“だがしや楽校”です。そのコンセプトは学童クラブと地域との交流です。学童クラブの普段の活動を地域の人たちに紹介することです。つまり、「学童クラブみせ」の“だがしや楽校”です。

自分たちの意思と力で「自分たちのだがしや楽校」を築かれた子どもアミーゴ西東京の“だがしや楽校”は、私（山口）にとっても思い入れのある“だがしや楽校”のひとつです。

そんな子どもアミーゴ西東京でしたが、「これからは全国のだがしや楽校の人たちとの交流も図りたい」と考えていた時に、今回の“だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”の話聞き、中曽根さん（子どもアミーゴ西東京の理事でもあります）の思い入れもあったので、今回の遠征を決めます。

つまり、子どもアミーゴ西東京にとっては、新たな第一歩を踏み出したことになります。

子どもアミーゴ西東京（向台学童クラブ）では、東日本大震災が発生して、いち早く自分たちができる支援を話し合い、そして実行します。昨年9月の“だがしや楽校”での売上の一部を被災地の子どもたちへの支援物資として活用し、千羽鶴や“だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”でも紹介されたメッセージ幕を添えて送ることにしました。それも「見える形で送りたい」ということでしたので、私（山口）のコーディネートで、子どもアミーゴ西東京と同様に、NPO法人で学童保育所を運営し、“だがしや楽校”も開いている米沢市内のNPOを介して、送ることにしました。

“だがしや楽校 @ あいづ発 福島を元気にするプロジェクト”終了後、その支援物資を私が預かったのです。

会津坂下町・金上公民館にとっても、新たな第一歩でした。

全国のだがしや楽校仲間とは深い交流がある金上公民館。これまでも全国各地で“だがしや楽校”を開いてきました。しかし、今回のように、自分たちの意思だけで会津坂下町を飛び出し、“だがしや楽校”を開いたのは、今回が初めてでした。

特に会津地方の中心都市・会津若松市で“だがしや楽校”を開いたことは、金上公民館にとっても、また“だがしや楽校”を会津地方で広めるという意味に於いても、とても良かったと思います。

私がこれより先に会津地方を巡った感触では、金上公民館で“だがしや楽校”を開いていることまでは承知していなかったものの、金上公民館の活動や“だがしや楽校”については認知されていました。特に金上公民館の活動は、会津地域に於いて高く評価されているように感じました。

ですから、今回の第一歩は、大きな第一歩に感じました。

このように、子どもアミーゴ西東京や金上公民館にとって新たな第一歩を踏み出すことにつながった“だがしや楽校”でしたが、これは“だがしや楽校”では、普段やっていること、これまでやってきたことを持ち寄っておみせにできるからです。

「普段・日常・出来ること」での活動の大切さをしみじみと感じたのであります。

それに加えて、「秘めていた（隠していた）力」を発揮した“だがしや楽校”だったとも言えます。これも新たな第一歩につながりました。

それにしても「会津を元気にしたい」という単純明快な思いは、物凄い力となりました。それ

は、意思決定から実行まで短時間だったことから、うかがい知ることができます。「とにかくやっちゃおう」「今実行しないで、いつ実行するの」という思いをヒシヒシと感じました。

これまでの常識・知識だけでは、今回の大震災は乗り越えられません。

◎普段・日常・出来ることを大切にする

◎一方で、普段・日常の殻を破り、第一歩を踏み出す

この2つの相反することを結び付ける新たなパワー、これが本当の復興への第一歩だと思います。そのパワーを秘めているのが“だがしや楽校”であり、“だがしや楽校”だからこそそれが出来るのです。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター